

大養協

大学日本語教員養成課程研究協議会
第42回大会総会・シンポジウム

地域と繋がる日本語教員養成 —多様な取り組み—

趣旨

「地域の特殊性を活かし、地域と繋がる日本語教員養成やボランティア養成」、また「地域から海外へも繋がる日本語教師養成」等の実践状況や課題を基底に、多様化する日本語教員養成の在り方への示唆を得る。

パネリスト

奥村訓代氏（高知大学人文学部教授）

テーマ：県の84%が森林で、高齢化が他より15年
進んでいる高知の中心から・・・

1) 高知県の特殊性（地理的、歴史的、文化的要因） 2) 高知大学人文学部日本語教員養成課程 3) 高大一貫教育の可能性 4) 「健康長寿県日本一」を目指す高知県らしい日本語教育とボランティアおよび教員養成のあり方等、四国の中でも高知の持つ特色やデメリットを如何にプラスに転換しようとしているかという話題を提供したい。

聖田京子氏（ハワイ大学名誉教授）

テーマ：ハワイにおける日本語教員養成について

1) ハワイ大学日本語科における日本語教員養成、2) 公立高校を対象にしたハワイ大学教育学部での教師養成、3) 地域の日本語学校の教員によるハワイ教育会内での教師養成等の実践状況等、地域の特殊性を交えて、それぞれの役割について考えたい。さらに時代的な変遷や海外との繋がり、将来への課題等についても述べたい。

中川かず子氏（北海学園大学人文学部教授）

テーマ：大学と地域をつなぐ日本語教員養成 —学生の
学びとボランティア教室の活性化—

地域のボランティア教室に毎週一回、最大で二年間、朝から午後遅くまで通う体験は学生達にとってどのような学びとなっているのか、これまでの参加者の回想記録、学習者の声、教師からの評価などから実習の成果と課題をまとめていく。また、教室の活性化の一方で、ボランティア教師の高齢化の問題がある。地域の日本語ボランティア教室を存続、発展させるための大学の日本語教員養成の役割を考えたい。

尚真貴子氏（沖縄国際大学総合文化学部准教授）

テーマ：沖縄県における日本語教員の養成について

「沖縄における日本語教員の実践能力の育成と課題」「地元と海外を繋ぐ教育実習」「地域の日本語学校や専門学校との連携」等を概観し、日本語教育現場に対応できる実践能力を備えた日本語教師の課題を考えていきたい。

日時：2012年10月12日（金）16：00～19：00
（日本語教育学会2012年秋季大会の前日）

会場：北海学園大学